



<左が筆者>

タイの匂い 〈理工学部国際実習プログラム〉

明治大学理工学部電気電子生命学科2年
瀧川 毅実

今回のプログラムで私は初めてタイに行きました。参加することを決めたのは何となく行ってみたかったからで、最初はそこまでこのプログラムのことやタイについてはあまり考えていませんでした。タイでは自爆テロが起こった後で、それが理由で何人かがプログラムをキャンセルしたことも後で知りました。結局プログラムの参加者は7人でした。何をすることもよく分からないままタイの空港に降り立った瞬間、ある匂いが私を襲ってきました。それは独特な匂いで、屋台や土や空気、全てが混ざったタイの匂いでした。次に私が空港で見たのはスターバックスでした。自分が考えている以上に、バンコクは発展しているのだなとその時思いました。

プログラムの中で、私たちは6社の日系企業と1つの外資系企業の見学をさせていただきました。タイには多くの日系企業が進出しています。訪問した企業の方たちは私たちをととても丁寧にもてなしてくださいました。それぞれに個性が違っており、大変楽しかったです。また明治大学卒業生の方でタイの日系企業で働いている方のお話や、タイの国内における問題についての講義を受ける機会もありました。また、自由時間には、バンコクのショッピングセンターやエステ、タイの観光地、市場など色々な所を巡りました。11日間の滞在でしたが、かなり密度の濃い経験でした。

タイについて知れば知るほど、魅了され、またこの国が抱えている問題にも目が届くようになりました。日本では考えられない軍事政権、不敬罪、警察腐敗、貧困格差、などについて、今まで以上に考える機会を得ました。タイは日本企業の進出が大きく、少子高齢化の問題を抱える日本にとっては、親密な関係を保ちたい国だと思えます。タイの国内問題がどう転ぶかで、日本との関係もかなり変わるのではないのでしょうか。

普段日本にいと見ることのない、日本の姿や日系企業、そこで働いている人たち、その人たちの考え方や、暮らしなどについて触れることができたのは大変貴重なことだと思います。こうしたことを経験させていただいたことに、本当に感謝でいっぱいです。このプログラムは本当に多くの方による働きかけやご協力のもとで成り立ち、そうしてやっと自分はタイに行かせても

らえたのだと強く思いました。

今回の滞在で一番良かったのはタイ料理が好きだったことです。ほぼ毎日タイ料理を食べていましたが、正直自分はあまり苦ではありませんでした。周りの子は辛かったみたいでしたが。そしてタイの人々は本当にチャーミングです。何度かご飯を食べに行ったお店の人とたまたまコンビニで会って、笑い合い、夜警をしている警備員さんがいつも寝ていて、私が通るたびに起こしてしまい、その度にまた笑い合いました。タイに帰ってすぐまたタイに行きたいと思いました。タイの気候は暖かで、モンスーンの後の空気は少しひんやりします。身体が覚えている感覚が懐かしくて、あのタイの匂いをまた感じたいです。

MEIJI UNIVERSITY